



昭和63年 5月15日

〒250 小田原市荻窪300番地

編集発行 小田原市役所 財政課



21世紀への飛躍

昭和63年度予算の概要



本年度は、「おたわら21世紀プラン」の前期実施計画三年目に当たり、予算については、「21世紀プラン」事業を最優先し、次の二点を基本とした積極的な内容となっております。

- ① 生活基盤を中心とするハード面の拡大
- ② 福祉・文化・住民参加などを中心とするソフト面の充実

昭和六十三年年度予算については、収入の根幹である市税を前年度に比べ、伸び率で九・〇五パーセント、金額では、二十二億円増額を見込みました。特に、会社等が納めていただく法人市民税については、景気の回復を考えて、前年度よりかなり増額して見込みました。

その反面、国庫補助負担率の引き下げが本年度も継続され、八億六千万円余の影響額が予想されるという厳しい状況でもあります。

このような財政環境のもとで、限られた財源を最大限有効に生かし、市民の皆さんの要望にこたえられるよう努力いたしました。

予算総額は、全会計合わせて九百七十億四千三万円、前年度に比べ六・五八パーセントの伸びとなり、そのうち一般会計は、四百三十四億一千万円で、伸び率が七・〇五パーセントという積極的な予算となっております。

一般会計におけるハード事業としては、総合公園野球場建設、辻村植物公園整備、街路築造、清掃工場増設、道路・河川整備など市民生活に欠かすことのできない都市基盤施設の拡充を行います。

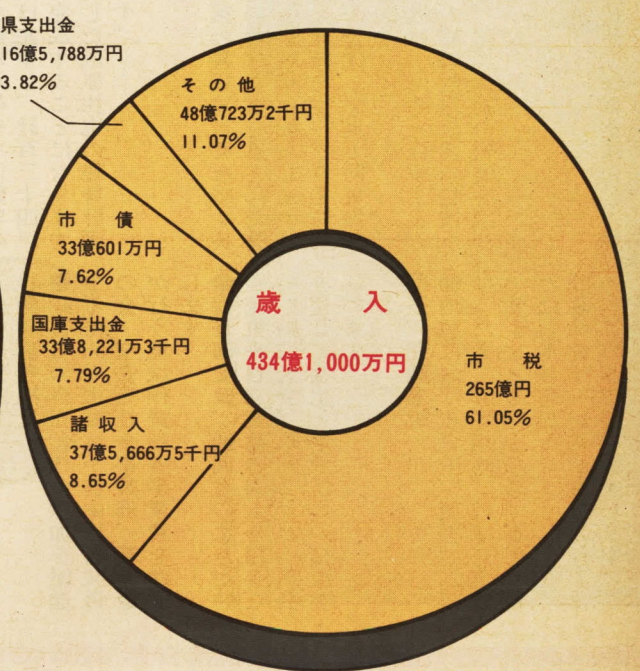
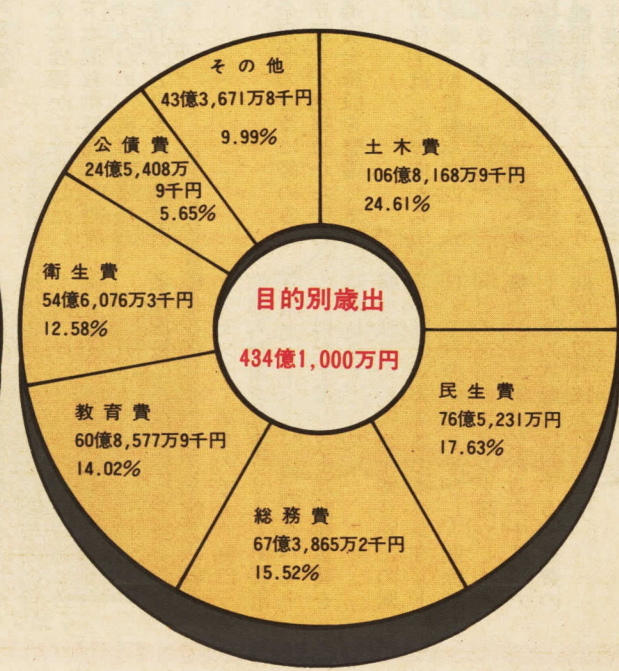
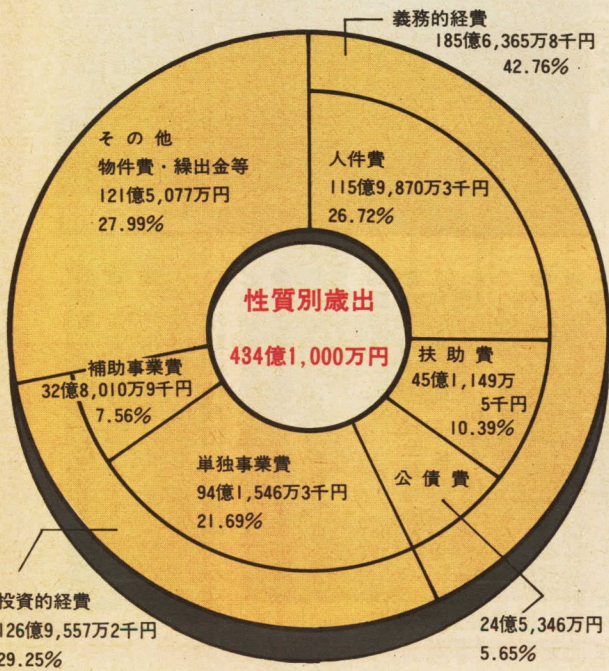
これにより、投資的経費は、百二十六億九千五百五十七万二千円となり、前年度に比べて十二・二七パーセントの増、構成比では、二十九・二五パーセントとなり、活力ある都市づくりを進めていきたいと思っております。

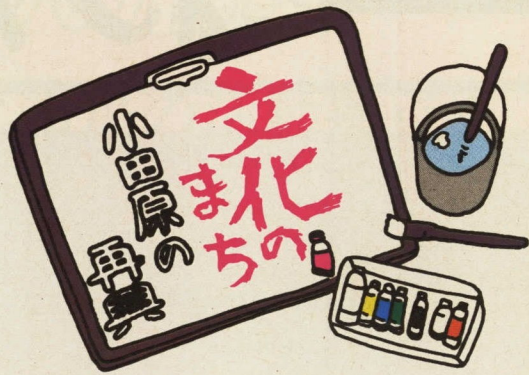
また、この建設事業の財源の一部は、国などからの借入金によって賄われていますが、年々増加傾向にあります。

ソフト事業としては、在宅療養者訪問看護事業、梅香園と地域社会とのふれあい事業、市史の発刊、生涯教育・婦人行政の推進など、福祉・文化の向上を図っていきます。

二面三面で主な事業をご紹介します。

一般会計予算の構成





- 歴史的環境と文化遺産を整備・活用します。
- 市民交流と文化活動を推進します。
- 次代を担う青少年を育成します。

市民文化

●心の潤いと郷土愛を大きくむ文化事業を推進するため、六十一年度創設した「ふるさと文化基金」に一億円を積み立て、この基金の充実に活用するとともに、利子を有効に活用して、文化の振興に役立てます。

●松永記念館では、特別展として春に(仮称)近代小田原の三茶人展を、秋に(仮称)森田曠平展を開催します。

●昭和五十六年度から準備、調査を続けてきました市史編さん事業では、待望の「近世史料編」を発刊するほか民俗編の史料調査などを行います。

●「ふるさと文化基金」の利子収入を財源に市内の史跡、名所、文化的行事などを紹介する文化ガイドブックを発刊します。

また、小田原文芸愛好会が行う(仮称)小田原文芸案内の作成費を助成します。

史跡・文化財

●史跡小田原城跡整備については、前年度に引き続き二の丸中堀の石垣復元工事を行うほか、住吉橋を復元するための設計を行います。

●「ふるさと文化基金」の利子収入を財源に相模人形芝居、鹿島踊りなど市内に伝わる民俗芸能を次代に伝承するため、ビデオに収録し保存します。

●歴史的町名を保存するため、前年度に引き続き町人町に標柱を設置するとともにパンフレット等を作成します。

社会教育

●二宮尊徳翁の遺徳を顕彰すると



尊徳の生涯が学べます。完成間近な尊徳記念館

学校教育

●下曾我小学校の校舎を、本年度から二か年で、鉄筋コンクリート造り三階建てに改築します。これにより、普通教室十四室、ワークスペース、プレイルーム、多目的ホール、ランチルームなどができます。

●足柄小学校の屋内運動場を鉄筋



校のびのび勉強。前羽小学校のびのび勉強スペース

コンクリート造り平屋建て一部二階建てに改築し、地域の方々にも開放します。

●城南中学校の既存校舎に三階部分を増築します。これにより、特別教室二室などができます。

●郷土の歴史、文化、伝統産業などについて、児童・生徒が直接見聞したり体験する授業を取り入れます。

●英会話を通じて国際感覚を養うため、鴨宮中学校をモデル校として外国人講師による授業を実施します。

学校保健・学校給食

●児童の心疾患の早期発見を図るため、従来の検査に加え小学校の四年生全員を対象に心電・心音図検査を行います。

青少年健全育成

●塔ノ峰青少年の家を魅力ある施設として整備拡充するため、セントラルロッジの内部改修などを行います。

の創造を まち 香る都市」づくり

- 自然環境を保全し、活用します。
- 健康で安全な住環境を形成します。
- 総合的な福祉政策を展開します。



4月に開署した城北分署



●高速化学処理場から希釈したし尿を流域下水道右岸処理場へ放流して処理するため、臭気濃度等の環境調査を行うとともに実施設計を行います。

交通安全

●交通安全思想の普及に努めるとともに、市民を交通事故から守るための交通安全施設を整備します。

●市営柳町住宅は、前年度から実施している第三期建替事業四十八戸が完成します。

また、本年度と来年度の二か年で第四期建替事業を行い、住宅二十四戸を建設します。これにより昭和六十年から始めた同住宅の建替事業は完了し、計百三十四戸の住宅が完成することになります。

●老朽化した浅原住宅の建替計画を進めます。

住宅

●独り暮らしのお年寄りなどの緊急事態に対応するためペンダント型の無線発信機を貸与し、関係機関との連絡システムを確立します。

●市独自の制度である六十八・六十九歳の高齢者に対する医療費の助成を引き続き行います。

心身障害者福祉

●障害者の自立と社会参加を促進するため、市肢体不自由児者父母の会、宝安寺社会事業部、若葉会が行う地域作業指導事業費を助成します。

●梅香園では、通園者の生きがいの充実や自立意欲の向上を図るため、納涼大会、映画会などの機会を通して園生と地域住民の交流を深めます。

防災

●東海地震の警戒宣言発令時や災害発生時の対応などをまとめた啓発用冊子を全世帯に配布します。

●総合防災訓練を行い、自主防災組織などの育成・充実と防災知識の啓発を図ります。

●防災資機材の備蓄を継続するとともに、内部の無線設備の整備を行うなど、防災体制の充実を図ります。

母子・児童福祉

●地域における児童の養育ニーズにこたえ、育児相談、地域交流等のサービスを行うため、本年度新たに「地域育児センター」として既設保育所一か所が指定されるため、この運営費を助成します。

消防・救急

●新たに救助工作車を購入し、交

通事故・水難事故等救急体制の一層の充実強化を図ります。

●消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ及び専用積載車を更新し、また、消防団待機宿舎を新築するなど消防施設の充実を図ります。

●本年四月から、城北分署を開設し、地域の消防力を強化します。

地域福祉

●昨年同様、「社会福祉基金」に一億円を積み立て、基金の充実に活用するとともに、利子を有効に活用して地域福祉活動に役立てます。

●真に心がふれあう地域社会の実現へ向けて、市民主体の福祉活動を助長し、民生委員を中心とした地域ボランティアが、全市民に行うねたきり老人等の介護訪問に必要な経費を助成します。

老人福祉

●在宅福祉サービスの向上に努め、ケアセンター事業の拡大、痴ほう性老人対策を充実させるため特別養護老人ホーム「西湘老人ホーム」のケアセンター建設事業費を助成します。

自然保護・緑化

●昨年同様、「ふるさとみどり基金」に一億円を積み立て、基金の充実に活用するとともに、利子を有効に活用して、緑豊かな都市づくりを推進します。

●「ふるさとみどり基金」の利子収入を財源に、緑を守り育てるための緑化推進キャンペーンの一環として、城址公園から城山公園にかけて市民参加によるアジサイの植栽を行います。

●快適な都市環境をつくるため、街路樹の植栽やみどりの広場の整備拡充を進めます。

保健・医療

●市民の健康づくりの拠点として、今秋に(仮称)保健センターが完成します。基幹病院である市立病院の高度医療機能の強化と併せて、保健・医療サービスの充実します。

●救急医療対策として、夜間や休日一般健康審査やがん検診を強化



整備が進む都市計画道路
扇町萩窪線

農業・観光

- 六商店会が行うアーケード灯の改修及びカラー舗装など共同施設の設置費を助成します。
- 「かながわ国際観光モデル地区」に指定されたことを契機に英文併記の観光案内板や英文の観光パンフレットを作成します。
- 小田原駅西口から辻村植物公園、北條幻庵屋敷跡などを経て、五百羅漢に至るハイキングコースを設定し道標を設置します。これにより市内のハイキングコースは、八コースとなります。

水産業

- 小田原漁港の改良事業を継続して行い、防波堤を整備します。
- 水産資源確保のため、根府川沖合で行う藻場造成事業費を助成します。

農林業

- 下曽我・曾我地区を中心とした「梅の里づくり」の計画地域内の農道の整備などを行います。
- 農業総合活性化対策として片浦・早川地区を対象に「みかんの里づくり」のための基本計画を作ります。
- 荻窪・石垣山農道の整備を継続して進めます。
- 前年度に引き続き、家畜し尿を利用した飼料作物栽培場の整備事業費を助成します。
- 年々利用者が増加している「いこいの森」の施設を拡充するため炊事場、あそびの広場、トイレなどを整備します。



散歩に森林浴にどうぞ辻村植物公園

市街地再開発

- 前年度に引き続き小田原駅前（仮称）貨物ヤード跡地区の再開発事業計画を作ります。
- 歴史的環境や都市景観などに配慮し、快適な都市づくりを行うための調査を行います。
- 下曽我特定土地地区画整理事業の進捗よくに合わせ下曽我駅の東西を結ぶ連絡通路を二か年で築造するほか、各組合の整備事業費に対して助成します。

工業

- 工業団地の整備に向けて、成田・桑原地区の実施計画を策定するほか、鬼柳・桑原地区の現況測量などを行います。

- 総合的な産業政策を推進します。
- 快適な都市基盤を整備します。
- 交通体系を確立します。



道路・橋りょう

- 都市計画道路の整備を図ります。〔扇町萩窪線、小田原駅西口東町線、栄町小八幡線、東町久野線、小田原駅西口城山線、栄町城内線〕
- 老朽化が著しい風祭橋（早川・三か年事業、木橋の山西橋（中村川・二か年事業）、（仮称）保健センター建設事業に関連する宮下橋（下菊川）の架け替えを行います。

河川

- 城址公園のお堀をきれいにするため早川から安定して取水できる施設を造ります。
- 栢山排水路などに、やすらぎの場としての親水護岸を整備するとともに、水害防止のための護岸整備を行います。

辻村植物公園

- 辻村植物公園では、園路、広場、修景施設などの整備を引き続き行います。
- 久野霊園では、本年度三十六区画の墓所を造成するほか、管理棟の敷地を造成します。
- 城山公園ほか既設公園などを整備します。

小田原らしさ 「歴史と文化の香」

事務管理

- 日本語ワードプロセッサ、パーソナルコンピュータを増設し、事務処理の正確、迅速、効率化を図ります。
- 図書館の業務をOA化することとし、本年度は児童図書貸出業務などを小型オフィスコンピュータで処理するようにします。

情報公開

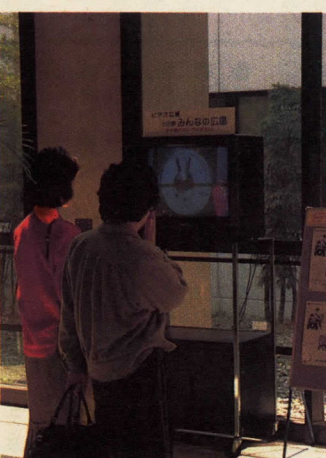
- 昭和六十四年度から市政の情報を公開するため、庁内に（仮称）行政情報センターを設置します。

女性の社会参加

- 女性がその個性、能力、意欲を発揮できる機会を拡大・推進するため各方面から調査研究をします。

ごみ・し尿処理

- ごみの増加と多様化に加え、第二工場施設の老朽化が著しいため、焼却施設を本年度から三か年計画で増設します。
- ごみの分別収集に協力していただく地区等に引き続き協力を交わします。



ビデオ広報の拡充

高度情報化

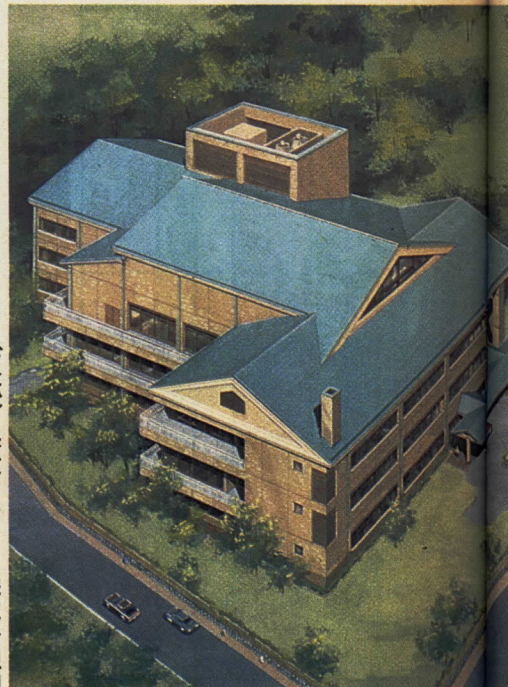
- 高度情報化への対応を図るための調査・研究をします。



施策推進の体制づくり

なつてまちづくりなどについて検討・討議し相互理解を深めます。

- 行政運営を改革します。
- 市民参加のシステムを確立します。
- 新たな行政課題へ取り組みます。



（仮称）保健センター完成予想図



女性の社会参加について語る

財政特集についてのお問い合わせは、財政課（☎331311）へどうぞ。

特別会計のあらまし

算出数字はすべて昭和六十三年年度
予算に基づくものです。
(一)内は予算規模を示します。

国民健康保険会計
(77億円)

加入者数 62,600人
年間1人あたり平均医療費 116,060円
年間1人あたり平均保険料 57,064円



下水道会計
(67億7,500万円)

処理原価(1㎡当たり) 161円
使用料単価(1㎡当たり) 72円



天守閣会計
(1億1,400万円)



1日平均入場者数 1,301人
入場料
大人 250円
小人 100円

競輪会計
(203億5,000万円)



競輪会計の収益金(22億円)は、土木費・教育費・下水道事業などの建設事業に使われます。

公設地方卸売市場会計
(2億550万円)



1日あたり平均取扱量
青果物 151.5t
水産物 74.0t

交通災害共済会計
(7,200万円)



加入者数 151,840人
加入率 80%
1件あたり平均見舞金 95,763円

農業共済会計
(1億700万円)



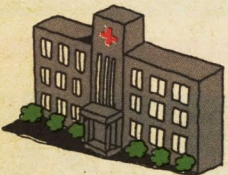
加入戸数
農作物(水稲・陸稲・麦) 1,704戸
果樹(みかん) 130戸
家畜(乳牛・肉用牛・種豚・肉豚) 28戸
園芸 85戸

国民健康保険診療
施設会計
(4,150万円)



1日平均患者数 32人

病院会計
(75億3,060万円)



1日平均患者数
入院 396人
外来 1,190人
ベット数 417床

水道会計
(37億3,333万円)



給水戸数 54,400戸
普及率 96.2%
給水原価(1㎡当たり) 112円
供給単価(1㎡当たり) 122円

片浦地区簡易水道会計
(8,100万円)



片浦地区の生活用水を安定して供給するため、同地区の簡易水道を公営化することとし、昭和64年度から施設の整備を実施します。

老人保健医療会計
(69億2,020万円)



対象者数 13,740人
年間1人あたり平均医療費 518,515円
年間1人あたり平均本人負担額 19,185円

市民1人当たりの予算と市税の使いみち

